

時の話題

▽高崎市PTA連合会（清水久美会長）は6日、同市の城南プ

ールで着衣泳の講習会を開き、市内の小中学生の保護者約60人が海や川に転落した際の対応を学んだ。
▽講師を務めた高崎市等広域消防局職員が、水に落



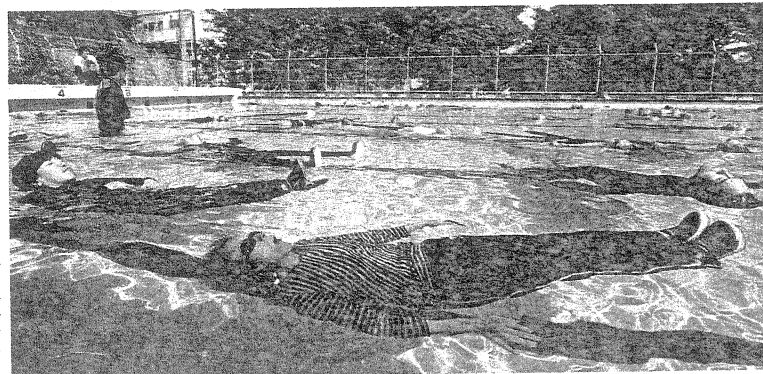
ちたときは泳がず、浮いて助けを待つのが重要と説明。参加者は空のペットボトルを抱えて浮いたり、水面から顔を出す練習をした
||写真。

▽3人の息子がいる市村真唯子さん(36) ||同市||は「適切な対応を知ることができた。帰ったら家族と共有したい」と話していた。

着衣泳 浮いて待つ

高崎 PTA60人が講習会

夏休みを前に、高崎市PTA連合会は6日、着衣泳の講習会を市城南プールで開いた。小中学校のPTA



服を着たまま体を浮かす体験をする参加者（6日、高崎市城南プールで）

代表約60人が参加した。講師役の高崎市等広域消防局の渡辺公郎さんは、着衣泳について「服を着て泳ぐのではなく、浮いて助けを待つこと」と説明。海や川に落ちたら、おおむけの姿勢で顔を水面に出し、肺を風船代わりにすることが重要だと強調した。「『助

けて』などと声を出さない」「浮輪代わりになる靴や服は脱がない」などとも呼びかけた。浮輪代わりに使うペットボトルを転落者に投げる際、ボトルに少しだけ水を入れると飛距離が伸びることも説明した。

参加者は、服を着たまま25メートルに入り、一斉に体を浮かせていた。新町第一小PTA会長の境野光さん(39)は「これから水に入る機会が増える。学んだ知識を生かしたい」と話していた。